

各団体の取組み事例
(当日配付資料)

(その 1)

・ 環境市民プラットフォームとやま P1

・ 富山県婦人会 P2

(その 2)

・ 富山市 P10

追加資料 環境市民プラットフォームとやま

GOALS	ジェンダー平等を実現しよう クリックで詳細を非表示	64.11
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.1.1	女性活躍推進計画の策定有無	1.00[0:なし, 1:あり]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.2.1	人口1人当たりの配偶者からの暴力相談件数 (配偶者からの暴力相談件数/総人口)	0.00[件/人]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.2.2	女性人口1人当たりの強制わいせつの認知件数 (強制わいせつの認知件数/女性人口)	0.00[件/人]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.3.1	18歳未満で結婚した女性の割合 (18歳未満で結婚した女性/女性人口)	0.00[%]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.4.1.1	家事従事者に関するジェンダーパリティ指数 (家事に従事する女性の人数/女性の労働力人口) / (家事に従事する男性の人数/男性の労働力人口)	9.32[-]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.4.1.2	待機児童数割合 (待機児童数/5歳以下人口)	0.00[%]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.5.1	都道府県議会議員の女性の割合 (女性の都道府県議会議員数/都道府県議会議員数)	7.50[%]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.5.2	役員の女性の割合 (女性の役員数/役員数)	7.61[%]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.6.2	女性活躍推進計画の策定有無	1.00[0:なし, 1:あり]
<input checked="" type="checkbox"/> LI5.a.1	女性の農業経営者割合 (女性農業経営者数/全農業経営者数)	5.41[%]

https://local-sdgs.jp/app/database_sdgs.php?lang=ja

提案事項 2

- SDGs 全体の促進の「手段」として重視されている Goal 5「ジェンダー平等を実現しよう」を本協議会でも注力
 - 富山県民男女共同参画計画（第5次）：「県の審議会等における女性委員の割合が県全体で4割を超え、さらに個々の審議会等において女性のいづれか一方が4割を下回らない状況を目指します」（P 6 5）
 - 男女共同参画（ジェンダー平等実現）を第一目標にする市民団体の参画を（委員定員25名以内→現在22名）
→推薦：「Nプロジェクト ひと・みち・まち」 理事長 大坪久美子氏



第142号

令和5年2月1日

富山県婦人会だより

発行/富山県婦人会 〒930-0805 富山県富山市湊入船町6-7 TEL076-441-4747 FAX076-432-1803

令和5年度全国女性団体連絡協議会中部ブロック会議

と き：令和4年9月24日(土)・25日(日)

1日目：12時50分～16時35分

2日目：8時30分～16時45分

と ころ：1日目：富山県民共生センター・ホール

2日目：立山・室堂方面

第13回 **絆** ～活動と交流のつどい～



開会式



開会あいさつ



立山・室堂



オープニング 南砺平高等学校郷土芸能部



櫻井よう子会長トーク



富山県立山カルデラ砂防博物館見学

明日は、この立山登山を計画いたしました。この中部ブロック会議の第一回目は、昭和三十三年に富山県で開催されました。以来、いつの日にか、中部ブロックの皆様は、三千メートル級立山連峰峰下の室堂平へお連れし、雄大な大自然を楽しんでいただく機会をとお願っております。今回これが実現でき大変嬉しく思っております。

今、婦人会は大変厳しい状況下にあります。この中部ブロックは、諸先輩の皆様のお陰でまとまっているといわれてきました。この大会を契機にこの良き伝統を引き継ぎ、情報を交換し合い、交流を深め、多くの人々と共感できる事業に努めてまいりましょう。

最後になりましたが、開催にあたり、富山県・富山県教育委員会・北日本新聞社様並びに北陸電力株式会社様には、格別のご指導・ご支援を賜りましたことに厚くお礼申し上げます、開会のごあいさついたします。

定です。

本日は、お二人の方々から講演を頂きます。お一人は、「地域活性化と女性活躍 多様性の開花を」と題して、富山県副知事 横田美香様から、もうお一方は、立山カルデラ砂防博物館館長 成瀬龍也様から「知られざるもう一つの立山と「護天涯」暴れ川常願寺川と生きる」と題してお話しいただきます。富山平野を洪水から守ってきた日本初、世界的にも評価されている立山カルデラ砂防工事とその歴史を学ばせていただく予定で。

今回は、県立南砺平高等学校郷土芸能部の皆様にお願いをいたしました。同校は全国高等学校総合文化祭の郷土芸能部門で最優秀賞の栄に輝かれました。その演舞を中部ブロックの皆様にもご披露することができ、こんなに嬉しいことはありません。生涯の思い出となりますことを願っております。

本日に、富山県知事 新田八朗様・富山県議会議長 渡辺守人様 富山県教育委員会教育長 荻布佳子様始め多数のご来賓のご臨席のもとに、全国女性団体連絡協議会中部ブロック会議と富山県婦人会「絆」活動と交流のつどい」を合同で開催し、全女連の櫻井会長、中部五県の皆様にご出席を賜り盛大に開催できますことは大きな喜びであり厚くお礼を申し上げます。さて、この「絆」の大会には、県内高校の活動発表をお願いし、交流を深めさせていただきます。



全国女性団体連絡協議会中部ブロック会議 第13回 絆～活動と交流のつどい～

富山県婦人会 会長 岩田 繁子

中部ブロック大会 & 絆

地域活性化と女性活躍

多様性の開花を



富山県副知事 横田 美香氏

1 ウェルビーイング政策

富山県のウェルビーイング政策「ウェルビーイングとは」収入などの外形的な価値だけでなく、キャリアなど社会的な立場、周囲の人間関係や地域社会とのつながりなども含めて、自分らしく生き生きと生きられること、主観的な幸福度を重視した「真の幸せ」・自分のやりたいことにチャレンジできる

2 真の幸せ(ウェルビーイング戦略)

・地域のつながりがある・自由に選択できる実感があるなど・県の発展に必要な人材集積のため、多様な人材が生き生きと暮らせる環境作りを取り組む・特に、若い女性のウェルビーイング向上のため、女性の多様性を認め、女性を取り巻く環境を改善する。県外の方々を温かく受け入れ、誰もが活躍できる文化を育むことで、人材交流を活発化

1 女性のウェルビーイングの向上

・男性のウェルビーイングの向上に多様性の開花につながる・社会における評価につながる(子供は敏感に感じ取る)・やりがい、能力が発揮される

なぜ女性活躍か

・多様性の開花につながる

1 ジェンダーギャップ指数(2022年)

日本は146か国中116位「外で働いて、その家事もしている日本の女性は可哀そう」・社会での決定権を有する立場に女性が極端に少ない・特に、女性の政治参画・経済参画が少ない

2 社会・経済の成長

消費の決定権が女性にあるもの米国内では73% 日本では63% 中国では50%である。経済の成熟とともに高まる。女性に評価されるもの、支持されるもの、課題のあるところに市場がある。

3 女性活躍と少子化ストップ

同質性の高い組織はリスクが大きい女性活躍が重要である。女性活躍と少子化ストップ

決定権のある立場で女性のため

・環境整備が必要。(家庭でのケア労働を分担する。)

1 アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)

女性活躍を進めるうえで様々な課題の背景には「男性は外で仕事し、女性は家庭を守るもの」のような性別によるアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)があると考えられる

2 ケア労働の社会と家庭内での分担

固定的役割分担意識が根深いため女性が家庭で忙しすぎる。自分のやりたい仕事など応援されない。長時間労働などの企業・組織の運営スタイルがある。

1 意思決定の場への女性参画の大切

多様性の重要性を認識する。いろいろな能力を活かすよう意識する。男女関係なく、責任ある仕事を任せ、育てる。(学ぶ機会の提供)

2 コミュニケーション・スキルの向上

・評価基準を明確にする。男性も含めた働き方改革・家事育児参画

1 アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)

・コミュニケーションスタイルの男女の違いを理解する。決めつけたコミュニケーションを避けたいか、応援する言葉をかけているかを意識する。

2 男性の育児休業取得のポイント

ポイント①日頃から業務の見直し、効率化、非属人化を進める。組織としていつでも誰にでも引き継ぎができるよう、業務内容の「見える化」やマニュアル化に取り組む

3 職場における意識のギャップ

職場における企業側と女性従業員の間意識のギャップがあるので、コミュニケーションをよくして、そのギャップを取り除くことが必要。

4 男女のコミュニケーションのすれ違い

・男女の脳の傾向、対話の方法の違いを理解する。男性に多い「問題解決型」女性に多い「共感型」との脳の傾向の違いがある。「今できること」に意識を集中し問題を解決しようとする。女性は、このいささか「プロセス」を反芻して根本原因に触れようとする。

5 これからの組織

共感型リーダーがビジネス価値を生む(AIが代替できない感情)「幸せ」「心の痛み」が価値を生む

6 地域の活性化

その地に人がいる、コミュニティがある。地域を超えた人の交流を増やすこと、新しい息吹(他地域とのビジネス、他地域を見る、世界を見る、視野が広がる)で、人が来たいと思う魅力が生まれる。

7 その地域に行く「目的」

・先には目的となるものがある。新しい経験、気づき・学び、美しいものなど、心地よさ、おいしいものなど、その土地ならではのものがある。

8 「目的地」となるか

・活かせるもの(価値)に気づく地域で価値を作る人、そして地域に行きたいと思う人がいて、その人たちが共にさらに新しい取組みをしていく。

9 地域が提供する価値

・どんな体験、サービス、モノが幸せを増やすかを検討することが大切である。

多様性の開花を

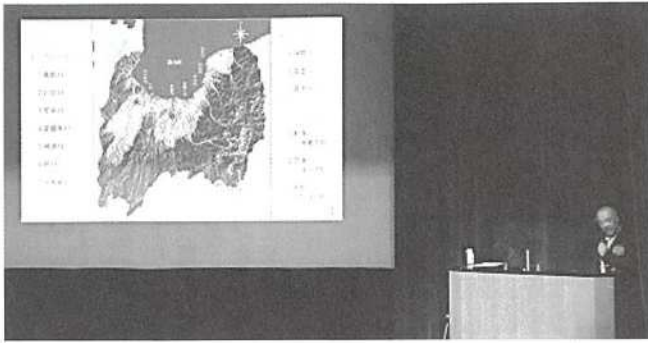
・多様性の中で生み出されていく、女性、若者、よそ者を応援しよう

多様性の開花を

・多様性の開花を

多様性の開花を

・多様性の開花を



講演

知られざるもうひとつの

立山と「護天涯」

暴れ川「常願寺川」と生きる

富山県立山カルデラ砂防博物館 館長 成瀬 龍也氏

立山カルデラの自然・歴史等について、立山カルデラ砂防博物館館長 成瀬 龍也氏の講演をお聞きしました。

立山は地層・地形・気象・生物等の自然に大きな特色を持つが、その中で、鍋底のような形をしたくぼ地「立山カルデラ」は、長い

歴史の中で、火山の噴出物が侵食され、ときには断層の活動で引き起こされた山体崩壊によってできた地形であると考えられており、立山の自然史を解く重要な地域でもあるという。

また、このカルデラに蓄積された大量の崩壊土砂が、大雨の度に常願寺川流域に土砂災害をもたらしてきたために、富山平野を守るために100余年にわたり、砂防の取り組みが行われてきたと、難航を極めた砂防の歴史についても触れられました。

地球温暖化で自然災害が多発する今日、私たちは、防災についても重要な活動の一環として学んでいます。私たち富山県民の命と生活を守るために長年取り組まれてきた砂防事業について明日はさらに学ぶことができると、期待が膨らむひと時でした。

二日目 立山カルデラ砂防博物館見学と立山室堂散策

二日目は、すばらしいお天気に恵まれて、富山駅北口から、二台の貸し切りバスに分乗して、意気揚々と立山へ向かいました。



まず、向かったのが富山地方鉄道の立山駅のすぐ横にある「立山カルデラ砂防博物館」一日目の講演で学んだ立山カルデラの砂防事業について、大型映像で学び直し、「崩れる」「流れる」「防ぐ」とい



う構成で作られている展示室を案内してもらいました。富山平野を守るために百年以上にわたり続けられている日本屈指の砂防事業を体感できる様々な工夫が凝らしてありました。

次に向かったのが、いよいよ室堂平。何回も訪れることのできる富山県人にとっては、お天気に恵まれるかどうかはさほど気にしなくてもいいのですが、県外から初めて来られた方々にとっては、お天気は大問題。雄大な景色を見て、みくろりが池周辺を散策し、自然を満喫して喜んでいらっしやる県外からの参加者を見てこちらもうれしくなりました。後で聞いた話では、散策している時に、かわいい雷鳥を見ることができた人も何人かおられたそうです。ラッキーでしたね。

ホテル立山でおいしいランチをいただき、お土産券を有効に利用して、たくさんお土産を買って、富山駅へと帰って来ました。すばらしい一日でした。



中部ブロック各県の活動発表

石川県婦人団体協議会

会長 能木場由紀子氏
コロナ禍の中、昨年度実施された中部ブロック会議や石川県女性県政会議をはじめとする年間の主な活動について報告された。

愛知県地域婦人団体連絡協議会

会長 山田 久子氏
全女会、LPガス安全委員会の委託事業である防災学習会について、県の理事が各会場に赴きともに参加することで、各地域の活動の様子を知り、行政や他団体との連携の在り方を学ぶ等、成果を得たことを発表された。

福井県連合婦人会

会長 田村 洋子氏
食品ロス削減の啓発活動「おいしいふくい食べきり運動」を中心として年間の様々な活動についても語られた。

岐阜県地域女性団体協議会

北方町婦人会
会長 市橋 千尋氏
「水環境への取り組み」について、小学生との清掃活動や学習会、岐阜農林高等学校の生徒たちとの水環境の学習を通じた交流について発表された。

富山県婦人会

理事 青山 芳枝
8月に実施した環境に関するアンケート結果について発表。

環境問題に関するアンケート結果

令和4年8月実施

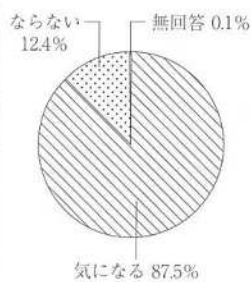
私たちは、かねてより食品ロス削減、レジ袋削減等、環境問題に取り組んできましたが、実態を知りたく、8月に、アンケートを実施しました。結果は以下のとおりです。

回答者
 ・県内12市町、1,621人
 ・男性21.7% 女性 70%
 ・婦人会員 28.3%
 ・非会員 70.1%
 ・年代 10代から90代まで 広範囲に渡る。
 70代28.8% 60代25.1%と最も多い。

◆食品ロスという言葉を知っていますか
 とが、あります。実際に97・5パーセントが聞いたことがあり、テレビや新聞を通じて知ったという回答が最も多く、続いて団体や組織、学校や地域活動等で知ったという回答が多くなっている。中には、子供や孫から、インターネット等を通じてという回答もあった。

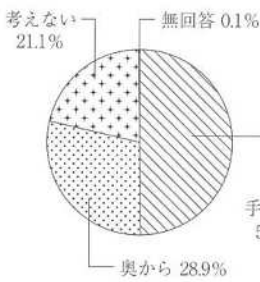
◆食品ロス削減のために何をしていますか
 家庭ごみを減らす努力、冷蔵庫の点検をし、食材を使い切るよう料理を工夫する、ゴミの水切りを徹底するなど、回答が寄せられた。また、賞味期限の迫った食材などを持ち寄り、サルベージパーティをする、フードドライブを利用するという回答もあった。

◆買い物をする際、賞味期限は気にしていますか。

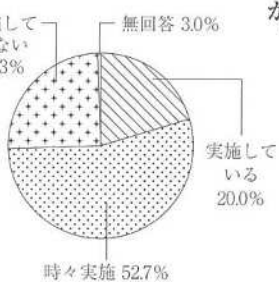


賞味期限が気になる人は87・5%でしたが、すぐに捨てることなく、五感を働かせ食べ切ることが多いという回答もあった。賞味期限と消費期限の違いを理解することも大切ですね。

◆商品を手前から取りますか。奥から取りますか。
 すぐに食べるものは手前から取るという人は50%、奥から取る人は約3割という結果が出ている。手前よりも食品ロスを防ぐ上で大切なことですね。



◆食品ロス削減のため、富山県では三〇一五運動を実施していますが、知っていますか。
 知っている 40・8%
 知らない 59・2%
 家庭・地域・学校等、あらゆる方向から浸透させる必要がある。



実施している人は、時々実施も含めると7割超。例として、冷蔵庫の中を点検、必要な物だけ購入する、食べ切り、使い切り、水切り、調理の工夫、作りすぎない、おすそ分けをする、フードドライブの利用等があげられている。

◆家庭のごみの量を量ったことがありますか。



計量したことがある人の感想
 ・ごみを減らすために、食べ切り、使い切り、水きりに努力するようになった
 ・ペットボトルから紙パック商品に変えた。
 ・家庭の実態を知り、ごみを出さないよう努力するようになった。

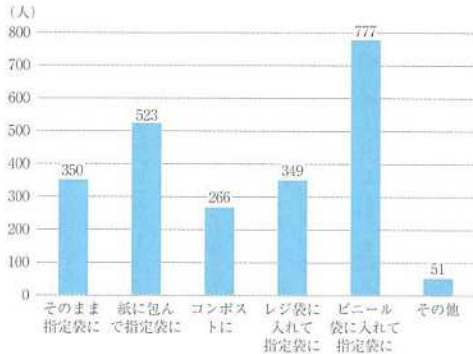
◆ゴミを分別していますか。
 実際に、98%の人が分別をしていると回答。2%がしていないという結果であった。

◆三〇一五運動を実施していますか。

家族が協力して、若い頃から意識を持つことが大切という意見がある一方、分別していないごみを回収しないなど徹底が必要という意見もあった。

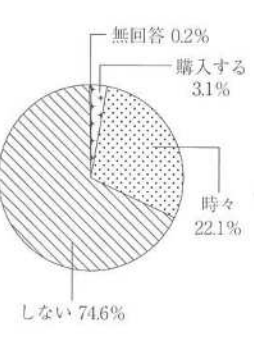
また、業務用ゴミは、分別しませんが、家庭ゴミは分別しなければならぬ、市民としては疑問であり、行政に改善策を求めるといった意見も出された。

◆生ゴミをどのように出していますか



生ゴミをビニール袋に入れてから指定袋に入れて出すという人が多い。臭いが気になるのだろうか。

◆レジ袋を購入しますか。



マイバッグ持参率90%以上の高率を保持してきた富山県。調査対象者を考慮しても25%がレジ袋を購入。その理由の一つは、生ゴミを入れるため。マイバッグ持参運動を徹底する必要性を感じた。

◆プラスチックごみを分別していますか。



ペットボトルを利用しないでマイボトルを持参という回答や紙パック製品に変えたという回答が見られた。

◆プラスチックごみが捨てられている川に流されたりしているのを見たことがありますか。



今、マイクロプラスチックゴミの海洋汚染が深刻な問題になっている。対策として次のような回答が得られた。

- 一人一人の意識を高める。ゴミ拾い、持ち帰り、地域清掃。大人が模範になる。
- 教育、広報等、社会で取り組む。
- リサイクルの徹底。
- 過剰包装をやめる。
- 景観にあったゴミ箱の設置。
- 花壇等、ポイ捨てできない環境づくり。

◆SDGsについて知っていますか。

知っている	79.9%
知らない	17.9%
無回答	2.2%

●個々の取り組みの例

- ・食品ロスの削減
 - ・マイバッグ持参
 - ・ごみの分別
 - ・3Rの推進
 - ・環境問題に関心を持ち、出来る事から取り組み
 - ・中学校の生徒会で実施
 - ・災害に備える
- 富山県婦人会も令和3年10月に県のSDGs宣言に応募、活動を進めています。

アンケイトを実施して

家庭ゴミの計量では、ゴミを減らそうという意識の高揚や、家族も協力的になったという嬉しい結果やマイバッグ持参という共感できることもあった反面課題も見つかり、今後の活動の道筋が見えた。

課題

- ・食品ロス削減、三〇一五運動のチラシを作成し全県下に配布や回収をしたが、三〇一五運動を6割の人が知らないと回答。普及啓発の必要性を感じた。
 - ・マイバッグ持参運動の継続とともにプラスチックゴミの削減を広く啓発していく必要を感じた。
- これらの結果を踏まえ、今後活動の継続を図りたい。
ご協力ありがとうございました。

令和4年度

6市町活動報告

令和4年度 入善町家庭教育研究集会 入善町連合婦人会

令和4年12月4日(日)
会場 産業展示会館
テーマ「次世代を担う子供たちの健やかな育ちをめざして」

講師 富山県民生涯学習カレッジ新川地区センター

演題 学習専門員 廣瀬 修氏
家庭・地域・学校が連携した子供の健全育成

講演内容 一部

子供に聞きました。「あなたの家庭にもつと望むことがありますか」家族のみんなが楽しく過ごす。どの年代の子供でも一番多い答えでした。子供は自分の家庭が楽しくないと考えているようです。

楽しい家庭って何？家族みんなが互いに意識的に協力しなければなかなか得られない。
「家庭」は、人生で最初の教育の場

(1)言葉を大切に

子供がやる気になる言葉かけを
受容・承認・行動・激励
こそが子供をやる気にする

(2)基本的な生活習慣や生活能力を

時間を尊重・挨拶・言葉遣い・食事

(3)感性を育てるために

2040年には人工知能が人間の知能を上回るといわれる時代。今ある仕事の49%が人工知能・ロボットに置き換わるとのこと。6割の人が今存在していない仕事に就く。そんな時、一番大切なものは感性。そのためには非認知能力の育成を。

◆非認知能力とは
勤勉性・意欲・忍耐力・思いやりなど
◎目に見えない感情や心の動きが非常に大切
・意欲、意志力がある。何かに夢中になる力
・自分のことを好きだと思える力
・自分の気持ちを前向きにコントロールする力

連携協力は誰が？
地域に住む一人ひとりが普段から地域の特色を活かし、一人一人が知恵を結集してよりよい地域づくりをすることこそ大切。激しい変化に対応する
やる気を育むのは、家庭教育が第一義。

具体的な事例
を挙げて熱く語り
られる廣瀬先生の雄弁さ、
21世紀に生きる子供の生きる力とは、夢中になって聞き、感動の多
すべからず考えさせられる有意義な
研修会となりました。



Withコロナ・の中で 集い・学ぼう！ 魚津市連合婦人会

「マスク着用の上参加願います」
会合のため必ず目にする文言です。そんな中での活動は楽しく、一度で完結ではなく継続？シリーズが良いなど役員会で話し合い、今回は「折り紙」と「おわら四季の踊り」をやるかと決めました。勿論どちらも講師が近くにいらつしやることもあり決めました。早速細かい交渉をし、9月・10月に行いました。
「おわら四季の踊り」
今まで見様見真似で踊っていま

したが
一、呼び出しの手(作業を始め
る)
二、苗箱を出し入れする運びの
手
三、種まき
四、確認(箱の中に種が残って
いないか)
五、カサ抜きの手(肩にかけて
いる袋で出来ているカッパ)
六、合掌
七、直りの手
こまでは普通でこれに+
つばめの宙返り
・稲刈り

と、練習が進むにつれ、皆さん
熱が入ってきました。そして先生
から着付けも練習してみたらと声
がかり・・・

おわら四季の踊りで、先生から
着付け・所作
の意味を学び、
また、身体を移動
するとき「重心
の移動を美しく」
と単に踊る
ことではなく生
き方にも通ずる
奥の深さを知り
ました。



さてもう一つの学びは折り紙で
す。簡単な物から難しい物へ挑戦
しようということ、
一、ペン立て
二、花
三、来年の干支の折り紙
四、干支の仕
上げ

先生からまず
「勝手に進めな
い・よく聴く・
よく見る」と注
意がありました。
皆さん生徒に
なって真剣に毎
回手と頭を使っ
て素敵な作品が



出来ました。
折り紙を折りながら、童心に？
ではなく新しい学びに出会った感
じで毎回臨みました。楽しくもあ
り、とても感慨深い時間でした。

富山県北方領土 資料室を訪ねて

滑川市連合婦人会

北海道以外での自治体レベル初
の啓発施設である富山県北方領土
資料室は黒部市にあり、今年、
まず西地区婦人会が視察研修に行
き、11月29日には北加積婦人会が
訪問しました。

ここのテーマは、「次世代につ
なぐ返還実現の想い」です。
男性3名女性1名の方々に解説
していただきました。歯舞群島の
水島島に住んでいた頃に小学生
だった男性が、島での生活を話
して下されました。「昆布の収穫時
期には、家族総出で昆布を浜に所
狭しとばかりに並べ乾燥させま
す。意外と早く乾燥するので次々
と浜一杯に広がっていきます。学校
から帰ってから手伝った」と、
懐かしそうに話されました。子
どもの頃の生活の中にお祭りや運
動会等も開催され、楽しみも本土
と同じようにある日々だったよう
です。歯舞昆布の漁場は、富山県
の先人によって開拓されて発展し
ていったのです。

パネルや史料、映像等で北方領
土のかかわりや歴史などを丁寧に
紹介していただきました。ライ
ブ映像もあり、国後島や歯舞諸島
の様子も放映されていて、黒部に
いながら今現在の景色が見えてい
て感激しました。ちよつと雲がか
かっていたのが残念でした。
学習コーナーのテーブルでは、
クイズに挑戦する人や講師の方々
に活発に質問したり、思い出や昔
話等会話がはずみ、いろいろな話



題に広がり、テーブルの周りには人でいっぱいになりました。じっくり話し込む人もあり、滞在時間をオーバーしているのにまだ名残惜しげに笑い声がひびき、大変有意義な研修会となりました。

会員が、北方領土返還要求の署名簿に、富山県滑川市からしつかりと明記し、署名をしてきました。思いがけず北方領土イメーჯキョラクター・エトビリカのエリカちゃんを全員にいただき、感激して研修を終えました。

企画したものの、これ程全員が充実した時間を持てるとは思いませんでした。私たちの年齢が高いため昔の話に共感できたから、知り合いが住んでいたから、菌舞昆布を購入しているからなど、いろいろと考えられますが、やっぱり一番のカギは、実際に住んでいた人の話が聞けたからに違いありません。「早く日本の領土を取り戻したい」その思いが私たちを応援させるのだと思えました。

関係機関との連携で活動の活性化を

地域女性ネットワーク高岡

地域女性ネットワーク高岡では、「輝く女性リーダーの育成」をテーマに「地域の活性化と安全・安心なまちづくり」の目標を掲げ活動に取り組んでいます。

地球温暖化の影響で、多くの災害が発生し、リスクが高まっている今日、女性の視点から万が一に備える為の防災学習会を実施しまし

た。昨年度は県防災士の講演で富山県全体の防災について、富山県の実態把握と危険から身を守るための行動などを学びました。今年度は、高岡市の危機管理課の自主防災アドバイザーの講義で、自分たちが住む地域の災害状況の違い、日頃の備え、普段の備えの大切さ、命を一番に考えた行動をとること、身近に危険が潜んでいることなど、具体的な防災活動を知

る機会となりました。正常性パイアスが邪魔していることが避難に結びつかないことを肝に銘じて繰り返し取り組んでいきたいと思えます。また、女性防災士の意見交換では、防災士の地域での役割の拡大に結び付けていくことが課題となりました。さらに、万一場合には一番エネルギーとして役立つLPGガスの話も毎年聞くことにより、備えの大切さを再確認することが出来ました。

エコライフを楽しむ市民の会高岡との連携では、平成30年度に市内で初めてフードドライブに取り組み、必要としている福祉団体に寄付しました。令和3年度はスパーとの連携により、より多くの住民の関心を集め、食品数が増加するようになってきています。食

品ロス削減については、地域へ出かけ出前講座として発信し、日頃の消費生活の見直しに結びつくようになっています。このように各関係機関との連携で組織間の共通理解が深まり、活動が活発化してきました。これからもともに活動を広げていきたいと思えます。



県西部 地区別研修を実施して絆「となみ女性の会」

今までにない早い梅雨明けと猛暑日が続いた6月の末から7月の初め、その2日に県婦人会地区別研修会・絆となみ女性の会研修会を開催した。個人会員の集まりである「絆となみ女性の会」では地区研修は無しと考えていたが何かできないかとグループ代表に相談しながら計画し始めた。実施を決めた段階でグループの特色を知り、取り組んでいる内容などを考え情報を集めた。趣旨は県西部地区から広く参加者を募り、会員相互の交流を図るとともに、地区それぞれの特徴を活かした活動とし、何より個人会員の集まりでも活動の精神を風化させざる事

ないよう人と人とのつながりを大切にしたい、という思いで開催するものである。そこで過去去婦人会で学び得た事が昨年の商工会女性部全国大会発表で全国最優秀受賞に結びついたという太田由和里さん(さくら会)の発表、フラーアレンジ協会認定講師をしながら店舗も持つ松永千里さん(さくら会)によるスワッグフラワーアレンジの壁掛け作り、環境問題を意識しながら長年ほかし作りをして生(なま)も土に返して畑の肥料にするという今井智子さんの発表、そして、地元産業の若鶴酒造を見学し、令和蔵、大正蔵の大ホールで「また会えてよかつたね」の合唱(すみれ会)、少し欲張りすぎた内容だったが、参加者の皆さんの満足そうなお笑顔や、労いの言葉に安堵した。

高岡市、小矢部市、南砺市、射水市から参加された会員の皆様、研修会を盛り上げていただきありがとうございます。コロナ禍、50名の制限をし、地元

の油田自治振興会館での開催に久しぶりにみんなで成し得たことに喜びと感謝の気持ちで杯になった。



ぶりにみんなで成し得たことに喜びと感謝の気持ちで杯になった。

会員一人ひとりに支えられて 小矢部市連合婦人会

当婦人会には9つの文化・スポーツクラブとサークルがあり、スポーツや作品づくり等を通して、会員同士の親交を温めながら、和気あいあいと活動を進めている。

年度当初、70代後半の某男性(日さん)から、「家内が月一回の山野草クラブをとっても楽しみにしてずっと続けてきたが、体が弱ってきて、一人での参加は無理になってきた。私も同行して続けさせたいので、私をクラブ員にしてみませんか」という申し出があり、快諾した。

他の行事にもお誘いしたところ、7月の環境セミナーでは岩瀬のエゴウウンでの学習会や岩瀬町散策や富岩運河クルーズを、10月の石川・福井方面日帰り研修旅行では、恐竜博物館や越前大仏見学、スキー場でのバイキング、山中座鑑賞と山中温泉街散策を楽しんでいただくことができた。いずれもコロナ禍であり中止も考えたが、コロナ対策を徹底し、

バスの中の密を避けるために大型バス2台で実施した。そして、11月中旬に2日間に渡って行った第6回婦人会祭りは、クラブ体験を始め、クラブ作品展示等を通して、婦人会活動への理解を深めていただいた。

12月下旬に宿泊を挟んだ3年振りの地域間交流事業が高岡市で行われ、2日目の午後には映写会が開催された。日さん夫婦は自宅から石動駅までは介護タクシーを、石動駅から高岡駅まではあいの風鉄道を利用するなど、乗り物の梯子までして、会場に足を運ばれた。「お終活」は人生100年時代を迎えた私たちの生き方に、前向きなメッセージを届けてくれた素晴らしい映画であった。

そして、12月に入り、山野草クラブの翌日、日さんから、「山野草の会と関連の婦人会行事、この一年、本当にお世話になりました。はじめて4月の会に参加した時、どうなることかと思いましたが、家内と皆勤賞でした。帰りに鍋焼きうどんを食べました。来年もよろしくお願ひします」との、心温まるメールが届いた。

日さん夫婦をはじめ、会員の皆様方に支えられて、婦人会活動は続けられるのだと、実感した出来事でした。よし、来年もがんばるぞ、という気持ちが湧き上がってきました。



令和4年度 地域間交流事業

期日 令和4年11月19日(土)・20日(日)

内容 11月19日(土)

研修 高岡市万葉歴史館・高岡市道の駅雨晴・情報交換会

開講式 講演 「なぜ高岡は万葉のふるさとなのか」

講師 高岡市万葉歴史館学芸課長 新谷 秀夫氏

館内見学 高岡市道の駅雨晴 情報交換会

11月20日(日)

研修 国宝瑞龍寺

家庭教育セミナー 映写会「お終活」



秋晴れの11月19日(土)に、県婦人会主催の地域間交流事業を、県東部、県西部の会員さんと共に開催しました。今回は、高岡市の歴史文化

次に、晴れた

義経岩を見学したり、道の駅で、「ほっと一息」の時間を楽しんだりしていただきました。

マンテンホテルでの情報交換会は、岩田会長の挨拶で始まり、各テーブルでは、会員相互の情報交換で盛り上がりました。アトラクションでは、手品や玉すだれで、



の連続の時間となりました。ボランティアの方の案内がすばらしく、より国宝瑞龍寺のすばらしさを学ぶ充実したひと時となりました。

午後1時から、ウイングウイング高岡・4階ホールで、家庭教育セミナー「映写会」も同時開催。満席の中、「お終活」を鑑賞。映



に触れる事業となり、バスで最初の目的地である高岡市万葉歴史館に向かいました。万葉歴史館では、開講式の後、新谷秀夫学芸課長が、「なぜ高岡は万葉のふるさとなのか」の演題で講



海から立山連峰が眺望できる場所、雨晴海岸へ!! 雲が多く立山は見えませんが、潮風を感じながら、源義経が奥州へ逃れる際、雨宿りをしたという



画では、どこにでもある普通の家庭に日頃起こる様々な問題が楽しく描かれ、笑いあり、涙ありの中心で受け入れることの大切さ、家族のつながりの中で日々寛容しあう心が安らぐ家庭を継続していけることを改めて感じました。参加された方から、本当に良い映画を鑑賞出来たとの声が多く聞かれ、担当した者として、開催出来たことをうれしく思いました。

歯舞昆布料理教室

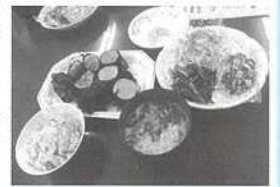
日時 令和4年12月1日(木) 12時30分
 場所 県民共生センター・調理実習室
 献立 新ショウガと刻み昆布、里芋のご飯、刻み昆布と卵のスープ、昆布巻き(種(たらこ、豚肉と)こぼろ、人参、人参と刻み昆布の佃煮、刻み昆布とカニカマのサラダ、大根ととろろ昆布のサラダ、こんにやくの昆布メ

今回は、定番の昆布巻きに、ご飯、スープ、佃煮、サラダ、昆布メを作りました。特に、今回は、今年度消費者庁の食品ロス削減推進ポスター養成研修を受けた人が複数参加していた関係で、講師をたずねて見ながら、食品ロスの削減にも気を配りつつ実施しました。

ご飯は、新しょうがのすっきりとした香りと里芋のほくほく感が味わえる一品となりました。また、残ったしゅうがは、佃煮に入れ、すっきりとした味わいを楽しみました。佃煮は、比較的簡単にでき



き、とてもおいしいです。残った昆布のつけ汁はスープに使い、細切り昆布、人参、しめじ、三つ葉などを入れ、かきたま汁風にし、ごま油を落としました。三つ葉の緑が鮮やかで、ごま油の風味が味わえとてもおいしいいただきました。刻み昆布のサラダは、ゆでた刻み昆布とほくしたカニカマ、ホールコーンを散らしマヨネーズで味付けをしました。これも短時間で作ることができ、しかもおいしくいただきました。大根の千切りにとろろ昆布をのせ、ポン酢でいただくサラダもさっぱりとしてよかったです。ゆでて水を切ったこんにやくを昆布で巻いた昆布メは、まるでイカの昆布メのようで好評でした。簡単にできるのでお勧めです。圧巻は、昆布巻きで、タラ子はしっかりと巻いて縛りじつくりと煮込みます。昆布に豚肉を置き、拍子木に切ったこぼろと人参を市松状において巻いた昆布巻き、色合いもきれいでとてもおいしいです。どれも簡単にできるものばかりですが、つけ汁から昆布の切れ端までを無駄なく使い、生ごみの量が本当に少なかったのが印象的でした。



4委員会報告

広報委員会

- ◆ 婦人会だより発行
令和4年8月1日 第14号発行
令和5年2月1日 第142号発行
県婦人会の活動を伝える。
- ◆ 活動報告書発行 3月発行予定
1年間の活動の記録

生活委員会

- ◆ サンプルフェスティバルワークシヨップ(6月25日) 参加
環境問題に関するアンケート実施
令和4年8月実施
県内15市町1,600人余から回答 実態を知る反面課題も見えてきた
ご協力ありがとうございました

青少年育成委員会

- ◆ サンプルフェスティバル

- ◆ 富山県婦人会ワークシヨップに
参加(6月25日)
◆ ワイメンズフェスティバル 健
康・スポーツ交流大会参加
(10月13日)

- ① 青少年の薬物乱用防止のため、参加者にチラシとティッシュを配布 啓発活動を実施
- ② 「足の健康づくりで、楽々ウオーキング」歩行寿命を伸ばそう」に参加

- ◆ 男女共同参画委員会
ワークシヨップ開催(6月25日)
講演「ジェンダー平等の社会を目指して」
講師 富山国際大学教授 村上 満氏
- ◆ サンプルフェスティバル
グループ討議
展示・防災学習の観点から

おめでとうございます

藍綾 綾章 富山県婦人会理事
滑川市連合婦人会会長
原 洋子
長年、明るく選挙の推進に寄与したことにより受章されました。
L.P.ガス安全委員会特別表彰(模範保安活動)
富山県婦人会

今後の予定

くろゆり学級 おわら体操
令和5年2月4日(土) 10時~11時30分
富山県民共生センター 308
講師 女性スポーツの会
会長 岡田 啓子氏

令和5年「北方領土の日」記念大会
令和5年2月4日(土)
富山県高志会館
カルチャーホール 11名出席予定

令和4年度中部ブロック会長・事務局会議
令和5年2月7日(火)
愛知県名古屋市 3名出席予定

第74回結核予防全国大会
令和5年2月14日(火)・15日(水)
熊本県熊本市 ホテル日航熊本
2名出席予定

第27回結核予防関係
婦人団体中央講習会
令和5年2月28日(火) 3月1日(水)
東京 KKRホテル東京
3名出席予定

北陸電力グループが提供する
太陽光発電の月額利用サービス
Easyソーラー
詳しくはこちらから!




加入電話・INSネットの「固定電話」をご利用のお客さまへ

固定電話のIP網への移行に便乗した勧誘にご注意ください!!

事実を誤認させるセールス・電話勧誘が発生しております。勧誘された際は、事業者名やサービス名、連絡先等をご確認ください。

「何か変だな?」と思ったら、すぐにお電話を。

★固定電話のIP網への移行に関するご不明点はこちらへご連絡ください。NTT西日本 問い合わせセンター 0120-190-022 [受付時間] 午前9時~午後5時(年末年始 12/29~1/3を除く) ※携帯電話からもご利用いただけます。 ※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。 番宣 22-985-1 [240131]